学校番号	T3003

平成３１年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２	年次	３
使用教科書	現代の世界史　（山川出版社）						
副教材等	担当者作成授業プリント等						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史的事象や人物に興味を持つ。
・歴史的事象に「なぜそのようになったのか」等の疑問を抱き、自らの力で思考する。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現代の世界の問題を考える。

２ 学習の到達目標

・歴史的事象や人物に興味を持ち、思考する。
・思考したものをレポートや発表という形で表現し、わかりやすく伝える。
・現代の世界の諸問題と歴史的事象を照らし合わせ、なぜ諸問題が起こっているのか理解する。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を持ち、自ら積極的に学び、考え、課題を発見できる。	現代世界の諸課題を世界史的観点から考察・分析し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、自らの考えをレポートなどにまとめて表明できる。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を文献やインターネット等を利用して収集し、まとめることができる。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を理解し、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら自らの知識として身につけることができる。
評価方法	授業中の発言 授業プリント レポート	授業中の発言 授業プリント 定期考査 レポート	レポート	授業中の発言 授業プリント 定期考査 レポート

上に示す観点に基づいて、前期後期ごとに評価し、学年末に 100 点法の評点と５段階の評定により評価する。
学習内容や学習範囲、および授業展開等に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 学習の活動

授業回	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1回目	大航海時代	・世界の一体化の始まり	○	○	○	○	a:大航海時代が持つ世界史的な意義に関心を持ち、現代社会とのつながりを意欲的に考える態度がある。 b:設定された主題について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:各航海者が歩んだ航路を、インターネット等を利用して自ら収集し、まとめることができる。 d:香辛料や銀が持つ有意性を理解し、それを踏まえて、大航海時代や世界の一体化についての知識を身に付けている。	・授業中の発言 ・授業プリント ・定期考査 ・レポート
2回目	近世ヨーロッパの成長	・17～18 世紀の西ヨーロッパ ・16～18 世紀の東ヨーロッパ	○ ○	○ ○	 ○	○ ○	a:絶対王政や立憲君主制といったような政治システムに関心を持ち、なぜこのようなシステムが出現したのかを意欲的に考える態度がある。 b:同時代における東西ヨーロッパの違いについて主体的に思考し、その違いや理由を世界史的観測で判断し、自らまとめて表現している。 c:大西洋経済とヨーロッパについて、三角貿易の発展を中心に適切な資料を選択し、活用している。 d:東西ヨーロッパの各国に形成された政治・貿易システムについての知識を身に付け、その必要性や要因を理解している。	・授業中の発言 ・授業プリント ・定期考査 ・レポート
3・4・5回目	近代の欧米社会	・イギリス産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命 ・反動と改革 ・ナショナリズムの時代 ・南北アメリカの道	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	a:近代欧米社会に革命が頻出したことに関心を持ち、革命の意義に関して意欲的に考えている。 b:設定された時代の諸国の特質を見いだし、多面的かつ多角的に歴史的事象をとらえ、適切にまとめている。 c:近代欧米社会に関する諸資料を収集し、自ら有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 d:近代における諸革命の基本的な事象や要因などを知識として身に付け、諸革命が起きた要因やその意義について理解している。	・授業中の発言 ・授業プリント ・定期考査 ・レポート

6回目	帝国主義とアジアの民族運動	・欧米による世界の分割と植民地化 ・民族運動と列強の対立	○	○	○ ○	○	a:欧米列強諸国が世界、とりわけアジアやアフリカに対して進出したことに関心を持ち、現代社会の諸課題とも関連させ、意欲的に考察している。 b:列強諸国の世界進出の要因や列強同士の衝突について主体的に考え、まとめ、多角的多面的に考察し表現している。 c:列強同士の対立や、巻き込まれる民族運動について、有用な資料を選択し、自らの知識理解に役立つように活用している。 d:列強諸国の基本的な事象などや民族運動の要因などを知識として身に付け、なぜ列強の対立が起こったのか、民族運動が隆盛したのか理解している。	・授業中の発言 ・授業プリント ・定期考査 ・レポート
7・8・9・10回目	二つの世界大戦	・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制と欧米諸国 ・民族主義の新展開 ・世界恐慌とファシズム ・第二次世界大戦	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:設定された時代にみられた各国社会の急激な変化や、二つの世界大戦の要因や国際社会への影響などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。 b:設定された時代にみられた各国社会の急激な変化の要因やその様相および二つの世界大戦の要因や影響について、自ら多面的多角的に考察し、過程や結果を適切に表現している。 c:ナショナリズムの高揚や各国陣営の構成、二つの世界大戦とその要因、影響などについて、諸資料を適切に選択し、自らの知識理解やその表現に関して有用に利用している。 d:設定された時代の基本的な事象や、二つの世界大戦の要因、総力戦としての性格についての基本的な事象などを、二つの世界大戦の影響などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	・授業中の発言 ・授業プリント ・定期考査 ・レポート

11・12回目	冷戦の時代	・冷戦の形成と第三世界の登場 ・核戦争の危機 ・多極化と緊張緩和 ・冷戦の変質 ・冷戦の終焉 ・冷戦下の日本	○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:二つの世界大戦後の諸地域世界について、現在まで続く諸課題に関心を持ち、自ら意欲的に追究しようとしている。 b:二つの世界大戦後の諸地域世界について、現在の政治・経済・社会問題等の動向と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程を適切に表現している。 c:二つの世界大戦後の諸地域世界の問題や諸課題、新たな問題とその要因などに関する諸資料を収集し、有用な資料を選択して、表現や知識理解に対して有用な形でまとめている。 d:二つの世界大戦後の諸地域世界についての基本的な事象を、世界の政治・経済・社会問題等の動向と関連付けて理解し、意欲的に考え、知識を身に付けている。	・授業中の発言 ・授業プリント ・定期考査 ・レポート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。